



## 里沼 (SATO-NUMA) 「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化



文化庁は2015年から2020年までの6年間で、国内104件を日本遺産に認定しています。地域に点在する個々の遺産をストーリーとしてつなぐことで、面的活用・魅力発信することを目的としています。館林の「里沼」は、2019年に70番目のストーリーとして認定されました。

関東の山々が一望できる館林では、今も多くの沼と出会うことができる。館林の沼は人里近くにあり、「里山」と同様に人々の暮らしと深く結び付き、人が沼辺を活かすことで良好な環境が保たれ、文化が育まれてきた「里沼 (SATO-NUMA)」であった。館林の里沼は、沼ごとに特性が異なる。その歴史を紐解くと、里沼の原風景と信仰が共存する茂林寺沼は「祈りの沼」、沼の恵みが暮らしを支えた多々良沼は「実りの沼」、館林城とつつじの名勝地を守ってきた城沼は「守りの沼」と言い換えることができる。館林の里沼を迎えれば、それぞれの沼によって磨き上げられた館林の沼辺文化を味わい、体感することができる。

発行 | 館林市「日本遺産」推進協議会  
〒374-0018 群馬県館林市城町3-1  
TEL 0276-71-4111

プロジェクト催行/編集 | 合同会社 紬・組

デザイン | KAERU

発行日 | 2025年3月10日

里沼  
公式サイト



紬・組  
WEBサイト



※本パンフレットの無断転載を禁じます。

## 館林紬

未来へ織りなす伝統と新たな息吹

## 群馬 館林馬

Tsukagashi Tsunagi,  
the traditional industry of  
Tsukagashi, Gunma



# 館林紬とは

About "Tatebayashi-Tsumugi"

館林紬は、鮮やかな縞模様が特徴の伝統的な木綿織物です。その織細で豊かな彩りは、見た人の心を惹きつけます。普段使いに適した丈夫さと素朴な温かみを持ち、長い間日常生活に寄り添う存在として愛されてきました。日本各地の木綿織物の中でも特にその品質の高さと芸術的な模様で知られています。



色とりどりの糸と反物が並ぶ織物工場(1984年)



館林紬が掲載された「群馬の織物」(1952年)

館林紬の起源は約1000年前に遡ります。当時「鶉(うずら)織」と呼ばれる織物が生産され、地域の自然と風土に支えられながら農家の副業として発展しました。江戸時代には館林藩の庇護を受け、品質向上とともに流通が拡大し、織物産業としての地位を確立しました。

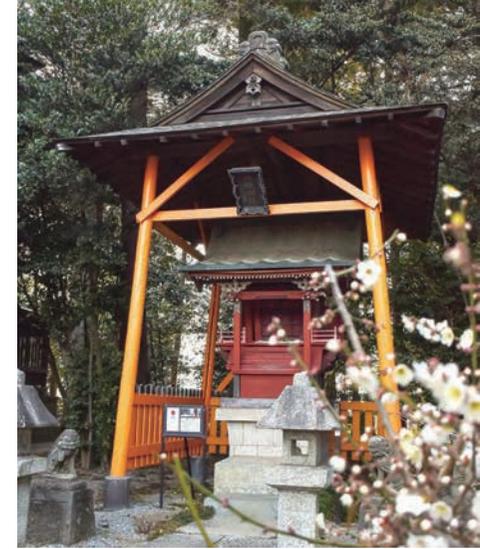
明治から大正時代にかけて、色彩と縞模様が特徴のこの織物は、地域経済を支える重要な産業となりました。特に大正時代には全国的に広まり、館林の街の活気を象徴する役割を担いました。戦後には復興の象徴として広く愛用され、現在もおその伝統が紡がれています。

Tatebayashi Tsumugi is a traditional fabric known for its vibrant stripes, offering durability and warmth. Though its production declined for a time, the tradition has been revived and continues to be taken over, keeping the heritage alive in modern times.

# 織姫神社と館林紬の歴史

The history of Orihime-Shrine and its textile industry.

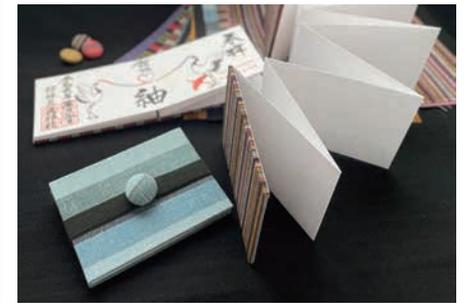
昭和初期、館林織物業界の繁栄を象徴する存在として「織姫神社」が建てられました。この神社は当時の「館林織物工業組合事務所」の隣に祀られ、同事務所には織物産業を支える試験場も設けられていました。その時代の産業の活気が伺えます。



長良神社の境内に佇む現在の織姫神社



織物会館と当時の織姫神社の絵はがき-昭和初期(館林市立資料館蔵)



御朱印帳づくりと館林紬御朱印企画(2024年)

現在、この神社は館林総鎮守である長良神社の境内社として残されており、地域の人々にとっても織物文化の象徴的な場所となっています。織姫神社は、祈りの場としてだけでなく、館林織物業界の歴史や伝統を次世代に伝える重要な役割を果たしています。

神社を訪れることで、かつて館林紬がどれほど多くの人々の生活に深く根付いていたか、その歴史の一端を垣間見ることができます。この地の文化遺産としての織姫神社の存在は、地域全体の誇りでもあります。

In 1930, the "Orihime-Shrine" was built to symbolize the prosperity of the Tatebayashi textile industry, representing the prayers and efforts of local weavers. It remains as a subsidiary shrine of Nagara-Shrine, preserving Tatebayashi's textile history and tradition as an important cultural heritage.

## 新たな動きと 再興プロジェクト

New movement and project.

2019年、館林市の「里沼(SATO-NUMA)」が日本遺産に認定されました。その構成文化財の1つとして「織姫神社と館林紬」も、2021年に追加で認定となりました。市内で織物業を営む人の数は減ってしまいましたが、それでも伝統を守り、館林紬の魅力を現代へと伝え続けています。



ホテル客室の壁を彩る館林紬アートパネル  
(TATEBAYASHI HILLS HOTEL)



館林紬で作られた繊細な一点物のピアス

地元作家によるアクセサリー制作やワークショップなど、織物文化を現代のライフスタイルに取り入れる取り組みが活発化しています。市内ホテルでは館林紬の端切れを活用したアートパネルが装飾に採用され、新たな活用も進んでいます。

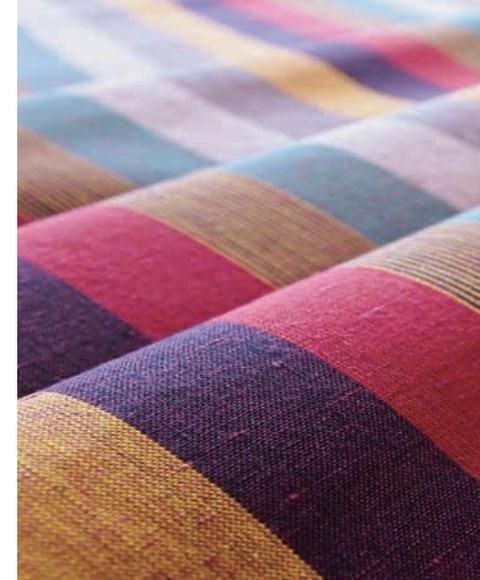
館林紬再興プロジェクトが展開され、デジタルデザイン化や新商品の開発が進められています。文房具や生活雑貨といった製品が生まれ、織物をより身近に感じられるようになりました。また、古民家を拠点とした手織り体験やワークショップも開催され、伝統技術の継承が行われています。

In 2019, Tatebayashi was recognized as a Japan Heritage site for "SATO-NUMA," and in 2021, "Orihime-Shrine and Tatebayashi Tsumugi" was added. While only Yamagishi-Orimono produces tsumugi today, revival projects incorporating textile culture, such as art panels and accessories, are underway.

## 館林紬の未来 「日日凜」

New symbol "Nichi-nichi-rin".

館林紬再興プロジェクトの象徴「日日凜(にちにちりん)」は、日常に寄り添いながらもどこか凜とした気品を感じさせる、という思いが込められています。構成する6つの色、7つのストライプには、それぞれ名前とストーリーを載せています。館林紬の未来を担う象徴として、紬の生地だけでは表現することのできない魅力を、この「日日凜」に託しています。



日常色		<b>宙立紅</b> Chu-Ritsu-Koh つつじに囲まれている様子 躑躅の花山
		<b>里流翠</b> Sato-Ru-Sui 里を流れる青、 鶴生田川
		<b>陽野眩</b> Hi-No-Mahiru 日に当たった眩しい野原、 郊外の麦畑
高貴色		<b>美皇紫</b> Mi-Oh-Murasaki 高貴で美しい、館林に縁の ある上皇后美智子さま
		<b>和悟葵</b> Wa-Go-Aoi 調和と洞察の葵、 館林城城主 徳川綱吉
		<b>躍子桜</b> Yaku-Shi-Sakura 跳躍する日本文化を 担う子ら
		<b>陽紫縞柄</b> Hi-Shi-Jima-Gara 陽野眩と美皇紫より、 一文字ずつ

日日凜は、鮮やかな赤緑黄の「日常色」と、紫系3色の「高貴色」を組み合わせた縞柄で構成されています。これらの色は、つつじ、鶴生田川、麦畑といった館林の自然の情景を表現するとともに、館林の歴史的背景や未来への願いを表現しています。

さらに、このデザインは文房具やアクセサリなどさまざまな製品になっており、地域の文化や風景を現代に必要とされる形で展開するものとして多くの人々に受け入れられています。日日凜は、地域の誇りを次世代に繋ぐ新たな象徴として、館林紬を未来へ紡いでいきます。



"Nichi-nichi-rin" symbolizes the Tatebayashi Tsumugi revival project, blending elegance with daily life. Its vibrant design reflects local nature and history, featured in stationery and accessories, and is widely supported as a modern symbol of regional culture.

# 織物が紡ぐ未来

Weaving the future.

織物には、人々の営みと時間が紡がれています。

館林紬もまた、歴史の中で受け継がれ、地域の文化とともに歩んできた織物です。

いま、また再び、新しい形で、その糸が紡がれ始めました。

地域の伝統織物は、単なる布ではなく、思いや技術を紡ぐ存在です。それぞれが織りなす色や形には、過去から未来へと受け継がれる精神が宿り、使う人それぞれの物語が織り重なります。

館林紬がこれからもそれぞれの時代の人々の暮らしに根付き、未来へ向かって新たな文化を紡いでいくことを、願ってやみません。

Tatebayashi Tsumugi is a textile woven with regional culture and history. Revived by those preserving its tradition, its stripes carry the spirit passed from past to future, hoping to weave new culture ahead.

